

【浜田市】 校務D X計画

浜田市は、学校におけるF A Xでのやり取りや押印の原則廃止を促すとともに、「すぐる」の活用による連絡の迅速化とペーパーレスの推進、及びMicrosoft Teamsを活用した児童生徒との連絡、教職員間の情報共有による校務の効率化を進めて来た。

また、教職員が校務に費やす時間と労力を削減するためには、不合理な手入力作業の一掃に取り組む必要性があったことから、校務支援システムの導入に向けて、浜田教育事務所管内の3市3町（浜田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町）による共同調達の方向で協議を行って来たところである。令和3年度からシステム調達の具体的な作業に入り、公募型プロポーザル方式による業者選定を経て、3市3町による統合型校務支援システムは、令和6年1月に仮稼働、同年4月から本稼働の運びとなった。

これにより、3市3町における児童生徒データや教職員データ、子ども達の支援の記録や指導の記録などをプライベートクラウドで安全に管理し、統合的な利用が実現することとなり、システムや帳票を共通化することで業務の標準化・業務改善を図り、教職員の業務負担の軽減及び教育の質的向上を図っていくことが可能となった。

今後の課題としては、操作研修の実施やヘルプデスクの活用を促進しながら、教職員がシステムの機能をフルに活用できる環境を構築していくことが急務となっている。

次世代校務デジタル化への課題

浜田市は、令和6年度に周辺3市3町による統合型校務支援システムの運用を開始したが、次世代校務デジタル化を支える5つの要素である、

- 校務系と学習系のネットワーク統合
- 校務支援システムと周辺システムのクラウド化
- 教員用端末の1台化、ロケーションフリーによる校務処理
- ゼロトラストの概念に基づいたセキュリティ対策の構築
- ダッシュボード整備・データ連携

に向けた取り組みが必要であるという認識のもと、県が主導する次世代校務支援システム共同調達・共同利用に参加し、令和10年度から新システムの利用を予定しており、合わせてネットワークの見直しに向けての調査・研究を進めていく。

（令和8年9月15日 修正）